

活用事例⑤

大阪府富田林市立大伴小学校
藤原智美、河津翔大、亀山きよみ、磯口多恵子

■活動した学部・学年：

小学校2・3・4・5・6年

■各教科等名：自立活動

■学習形態：支援学級—全体

■本の名前：

『こうえんのパッケンおばけちゃん』

■対象となる子どもたちの実態

- ・読み書きに対して、非常に苦手意識をもっている子どもが多い。
- ・自分から、文字や文章や本を読んだりするのが苦手である。
- ・文字ばかりの本は、なかなか読みづらく、わかりにくい。色彩が淡い色調で、優しい挿絵があると苦手意識が軽減される。
- ・わざわざ3階にある学校図書室まで行って本を探したり、マルチメディアDAISY図書の一覧表では、なかなか本を探すことができなかった。しかし、場所や時間に制限されることがないため自分の教室で、いつでも手軽に読めること、また、カラー一覧表（写真入り）から、読みたい本を、楽しんで見つけ出すことができるようになってきている。

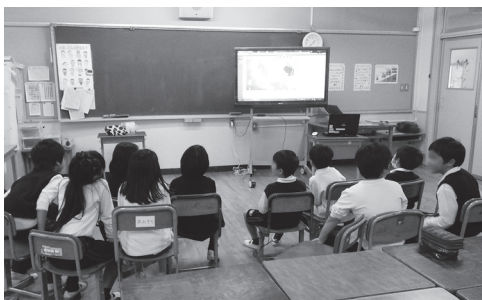
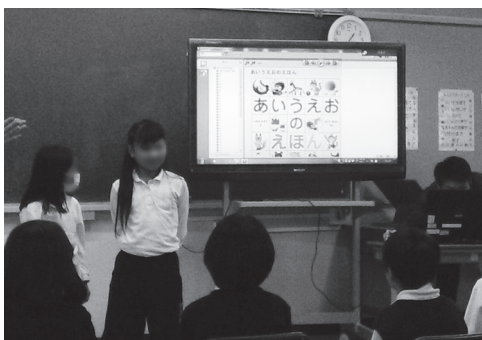
■学習のねらい

- ・はじめから最後まで、聞くことができる。
- ・『こうえんのパッケンおばけちゃん』の感想を言うことができる。

■使用した道具・機材

■実際の様子について

【使用中の写真】



【実際の様子】

・事前提示の仕方

「わいわい文庫」の一覧表を見せ、マルチメディアDAISY図書に興味をもたせる。

・実際の様子

一覧表のなかから『こうえんのパクンおばけちゃん』『あいうえおのえほん』『へんしんトンネル』知ってる。読んで。何回聞いてもおもしろい」と選んだ。

・事後評価

好きな本・興味のある本を読んでもらうこと、大型テレビに絵や文字が大きく映し出されること、また、読んでいるところの文字・文章がハイライトされることにより、どこをどう読むのかがわかり、自分でも声を出して、いっしょに読むことができた。

読む速さも、ゆっくりとしゃべりやすいスピードに調節できた。「パクンパクン」と流れに合わせみんなで声を合わせてマルチメディアDAISY図書の音声と声を合わせることができた。

最後まで集中して聴くことができた。

「たのしいね」「また聞きたいね」と感想も言うことができた。

■本に対する情報提供など

【本の情報】

- ・支援学級全体の活動のなかで、低学年から高学年までそろい、支援の内容もさまざまな子どもたちであるが、いっしょにマルチメディアDAISY図書を聴くことで、仲間と安心して、活動に取り組むことができた。
- ・読みに苦手意識がある子どもたちであるが、マルチメディアDAISY図書を活用することで、録音された音声の真似をして、限られたことばではあったが、大きな声と一緒に読むことができた。
なかには身体を動かして、身ぶりもつけている子どももいた。やはり、このマルチメディアDAISY図書の利点である「ことばや、文章の区切り」などが、ハイライトされることにより、「どう読むのか、いまどこを読んでいるのか」がよくわかることで、安心でき、自信をもてたのだと思う。読みに自信がもてること、「パクン、パクン」と声を出せたことが、子どもにとっても楽しい時間になったと思う。
- ・「今度はなに?」「つぎはへんしん～やな」と、次回「わいわい文庫」を使う時間を期待する声をきくことができた。また「わいわい文庫」は内容が低学年から高学年向きとさまざまなのでたいへんありがたい。